議会レポート

発行者　鈴鹿市議会議員 石田秀三
鈴鹿市伊船町２７５１　電話 71-0423
2004.4.29　№113　FAX 71-2469

子育て支援センター完成

御薗町の清掃センターのとなりに市が整備していた「子育て支援センター」が完成し、その概要が4月15日の議員懇談会で報告されました。以前からあった「鈴が谷厚生センター」の廃止された施設を全面改修したものです。施設概要は次のとおりです。

事業スタートは8月から

敷地面積　2,591.38㎡　　建物面積　514.94㎡
鉄筋コンクリート造り平屋建　　駐車場　43台分
保育室1　１４５㎡　フローリング床　舞台つき
保育室２　２８．６㎡　畳敷き和室
他に玄関ホール、多目的コーナー、相談室など
【　主な事業　】
●施設開放事業(場の提供)　●電話・面接などの相談事業　●子育てサークル等の育成、団体等のネットワーク　●情報発信、講座・講演事業　●ファミリーサポートセンター事業
開館はＡＭ９：３０～ＰＭ４：３０　休館は日、月、祝日 など

十分なスタッフの配置が課題

ふつうの子育てが難しくなってきた現代、何でも気軽に相談したり、親子で友達づくりができる場所ができるのは、大いに歓迎です。家にこもって悩んでいるお母さんたちの救いの場になることが求められます。

しかし、スタート時の職員配置は、所長以下4人の予定とのことです。この人数で毎日訪れる多くの親子に十分な対応が出来るかは、疑問です。

鈴鹿亀山広域連合は解散しても良い

鈴鹿市の介護保険事業は単独でできる

4月27日、亀山市、関町が合併して新「亀山市」となることが、両市町の議会で議決されました。合併期日は来年の1月11日です。

この合併に関連して、これまで5年間鈴鹿市・亀山市・関町の２市１町で構成してきた「鈴鹿亀山地区広域連合」を今後どうするのか、議会の中で論議がされています。これまでの延長線上で2市のワク組みを続けていくのか、それともこの際、連合を解散して両市ともそれぞれ単独で介護保険事業を行なっていくのか、二者択一の問題です。

住民の顔が見える行政にしていくべき

もともと介護保険が始まるとき、鈴鹿市は単独で準備を進めていました。ところが、当時の加藤市長が急に「広域連合にする」と言い出して、議会でも議論はありましたが市長の提案を認めることになったのです。ウラでは県からの強力な働きかけがあったとのことで、「市町村合併」を視野に入れた動きでした。しかしその後、加藤市長は亀山ではなく「四日市市との大合併」を言い出し、広域連合とは「ねじれ」の関係になりましたが、四日市との合併がパーになったので、一応広域連合は元のサヤに納まっています。

広域連合は、市の境界を越えていろいろな業務ができる権限があります。しかし発足以来やっているのは介護保険だけで、今後もほかに共同でする事業の見通しはありません。

日本共産党市議団は最初から、広域連合は必要ない、介護保険は鈴鹿市単独で行なうべきとの意見を主張してきました。国民健康保険をはじめ、各種福祉施策や医療の施策は、すべて市単独で取り扱っているのに、介護保険だけが市からはなれています。これは大変不合理で、鈴鹿の議会で介護保険の改善について質問しても「それは広域で」、広域連合の議会で質問すると「それは各市と協議しないと」という具合で、まともな議論もできません。こんな「中二階」のような組織は、市民にとっても分かりにくく、声も届きにくいものです。

財政的に見ても、今後鈴鹿市単独になっても、広域の場合と負担は変わりません。つまり広域のメリットは、何も無いということです。

南部地域Ｃバスの検討すすむ

西部地区で好評のＣバスを、同じように交通不便な南部地区にもと検討をすすめてきた鈴鹿市交通網整備促進研究会が、平成15年度の調査結果をまとめ公表しました。

来年度にスタート、２路線で運賃は100円

調査の対象は国府、天名、合川、稲生、栄地区で、これらの地域をカバーするには2路線が必要として、平田町駅やショッピングセンター、鈴鹿サーキット、白子駅などへのアクセスを入れたルートの設定を行ない、通学、通院、買い物など住民のニーズに答えます。運行は1時間に1本、朝7時から夜8時の時間帯で、運賃は一人100円、バス停は200メートル間隔に設置、など、西部Ｃバスの4年間の運行経験を生かした内容になっています。

西部路線の「支線」も2路線で検討

また今回の調査報告では、西部Ｃバス路線の空白地域についても、マイクロバスを使う「フィーダー交通」を具体化し、これも来年度スタートをめざして検討を進めるとしています。

佐々木憲昭衆院議員鈴鹿に来たる

5月15日（土）午後2時より
鈴鹿市文化会館さつきプラザ

参議院選挙勝利・鈴鹿市後援会のつどい

（お知らせ）ホームページを開設しました

このたび4月より、私のホームページを開きました。日々の活動日誌を中心に、皆様に楽しんで読んでいただけるようにがんばりますので、よろしくお付き合いをお願いします。また、ご意見もお寄せください。
[http://ｗｗｗ.jcp-mie.jp/ishida/]（「石田秀三」で検索できます）

ずいそう

映画「アイ・ラブ・ピース」

四日市で上映された映画「アイ・ラブ・ピース」を観た。ろうあの女優・忍足亜希子が主演する、「アイ・ラブ・ユー」、「アイ・ラブ・フレンズ」につづく、障害者の問題を正面からとらえたシリーズ第３作である。

今回は戦争で国が崩壊したアフガニスタンの少女パリザットが登場、地雷で片足を無くした少女と、義足をつくる義肢装具士をめざしている主人公の心の交流の物語である。

戦乱がつづく中で暮らし、平和を知らない人々

かつてこの地を旅したフォークシンガー河島英五が、あまりにも美しい自然に感激して、その地名を生まれた娘に付けたという、アフガニスタン。そんなすばらしい国が1979年の旧ソ連からの侵略、ソ連撤退後は内戦とタリバンの支配、そして「テロとの戦い」を口実にしたアメリカの攻撃とつづく中で、自然も街もガタガタになってしまった。いまだに1000万個もの地雷が埋まっていて、子どもたちが被害にあっているという。

少女は言う。「私の国は、私が生まれる前からずっと戦争をしていました。だから平和がどういうものなのか、よくわかりません。ただ、地雷の恐怖から解放され、どこでも自由に歩けることが平和なら、私は平和を愛します。」ここでもＮＧＯのボランティアが、献身的な活動を行なっているが、国としての復興の道のりは遠い。

いまイラクも、アフガニスタンと同様、大国アメリカによって国土を破壊されている。メソポタミア文明発祥の地が、今は見る影もない。人の国をめちゃめちゃにしておいて、その口で「復興支援」などとよく言うものだ。アメリカの従順な手下・日本は「人道」という言葉まで付けて自衛隊を出し、本当に人道支援に行って「人質」とされた市民を「非国民」扱いしている。まったくひどい、あきれた話としか言いようがない。

アイ・ラブ・ピース　鈴鹿上映会のお知らせ
6月13日(日)　鈴鹿市文化会館けやきホール
どうぞお出かけください。チケットあります。
ＡＭ１０：３０　ＰＭ１：３０　上映協力券　一般1200円